

致知

2008年4月号 目次

表紙の人・五木寛之氏・松原泰道氏

誌名の由来 これは中国の古典『大学』に出てくる有名な言葉である。
“致知”とは人間本来の英知を明らかにし、現代人に欠ける“知行合一”の精神をいう。

◎特集◎

「人生の四季を生きる」

◎巻頭の言葉◎ ——— 2
着眼大局、着手小局
牛尾治朗
ウシオ電機会長

◎対談◎ ——— 8
釈迦が歩いた道
五木寛之 & 松原泰道
作家
南無の会長、龍源寺前住職

◎特別講話◎ ——— 20
『易経』が説く
人生の四季を生きる心得
伊與田覺
論語普及会学監

◎対談◎ ——— 26
経営は四季の連続である
澤村経夫 & 白木学
日本アルミ社社長
シコ―技研社長

青春を輝かせて生きる ——— 36
非行少年たちの更生に命を懸けて
能重真作
NPO法人非行克服支援センター理事長

「インタビュー／人生の四季を生きる」

① 大事故を乗り越え、
いま再び人生の春へ向かう ——— 42
川井みな子
元宝塚歌劇団

② すべて受け入れたら
人生の季節も景色も変わってくる ——— 46
鶴川 一字
ユビックス社長

③ この谷のこの土を喰い
この風に吹かれて生きたい ——— 50
渡辺 淳
画家

我が硫黄島戦記
極限の季節を生きてきた ——— 54
秋草鶴次
硫黄島生還者

◎対談◎ ——— 60
人生の四季をどう生きるか
境野勝悟 & 青木新門
東洋思想家
作家



境野勝悟
「人生をどこで打ち切られてもいいと思えるくらい、
きょう一日を充実して生きなくてはならない。
それを、肝心の『きょう一日』を疎かにして長く生きるためだけに努力するのだから、
これは本末転倒なんですね」(P.62)



伊與田覺
「よく『定年後は、のんびりと余生を送りたい』という声を聞きますが、
私に言わせたら六十歳という年齢は体力的には衰えてきても人間的な旨味が出る時。
長年蓄積した経験もあります。
こういう時こそ新しい志を持って前進すべきではないかと思います」(P.25)